

事業報告書

8月NRST

事業名		8月NRST		事業主体	事業NO	
日時	2021年8月21日(土) 19:00~21:00			会場	Web会議	
責任者	浦川 昌代	補助者	三ツ溝 勝之・相馬 博之		参加数	34名
講師	菊次 勉氏・黒澤 央氏・山口 茂久氏・森田 周二氏					
参加者 (敬称略)	岩永、上野、内田、川原、北村、草場、黒澤、酒井、坂本、永尾、原田啓、諸原、和田、兼依、木村、藤、入江、浦川、岡田、小川、菊次、杉町、相馬、永田、名切、納屋、原田雄、橋本、福田、松田、森田、山口茂、山下、三ツ溝					
テーマ 内容	<p>(進行)浦川</p> <p>19:00~ 挨拶[小川委員長]……コロナ感染拡大で三重県知事が国体中止を国に要請。ワクチン接種を。</p> <p>19:03~19:27 前座⑧「キクさんのいらん世話シリーズ」[菊次氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチ制は「個人&グループ担当制」、メンター制は居住地による「3地区制」に改編を検討中。 ・2021NRTC指針を「強い選手の創出を支援し、美しいサッカーを実現する」に。そのために自分はどうするか、イメージして。「この点では絶対負けない」というものを持って。 ・日常生活をつつがなく送るためにはある程度の自己欺瞞が必要。それをいかに制御するかが課題。 ・戦術については、自分がその戦術通り動けなかったら理解していないのと同じ。 <p>19:30~20:20 講座22「九州プール報告②&インターハイ活動報告」[黒澤氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州プール活動…選手のリアクションで判断するのではなく、その瞬間の写真を撮る感覚で判定を。2級審判を全国大会へ送ろうという方針。全国高総体へも全国のプールから2級審判派遣。今後国体&全国社会人に派遣される中から次期JFL候補が選出されていく。 ・インターハイ経験…全国大会に行けるのはすごく有り難いこと。全国でしか見えないものがある。選手第1で選手のために何ができるかという視点が大切。皆審判はいろいろな悩みを抱えている。最終的には自分で考え「この試合で何がやれるか」を考えよう。NAGASAKI REFEREEの「色」を創り出していこう、ALL NAGASAKIで。 <p>20:23~20:57 講座23 メンタル④「良いパフォーマンスの実現へ」[森田氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判をする上で大切なもの…①情報収集力→状況を把握し、どこにフォーカスしていくか優先順位をつける。ゲームの流れを感じながら気づき、アクションを起こす。角度・適切なポジションを意識しながら判断する。加速力からのスピードを持ち備える。120分間走れる持久力を身につける。 ②判断力→競技規則を十分理解し一貫した判定基準を示す。ゲームの難易度を理解しながら、スムーズな運営を心がける。予期予測を常に持ちながら的確に判断する。反則の質、悪さに気づき対応する。試合に責任を持ち、自信をもって決断する。③実行力→競技規則の下、場の雰囲気、温度なども考えた適切なゲームコントロールに努める。気づき予測を持ち、先読みをしたマネジメントを行う。試合前の打ち合わせから明確な指示を与え、試合中もリーダーシップを発揮する。明確なシグナルと的確な判定を基に信頼を得る。 ・審判人として大切なもの…④個性・社会性→謙虚な姿勢、好印象を得られる態度。義務と責任を考えながら行動。自身のストロングポイントを自覚し更にレベルアップを。審判活動をできることに感謝とリスペクトの精神を。レフェリングに表現力を活かす。 ・フェア=公正・公平=私なく「公」であり「正」しく「平等」。=「善」であり「美」 <p>20:57~ 閉会行事 [感想]名切氏:全国大会でいかに協力してレフェリングできるか人間力が試される。 [総括]山口GM:今はできることをやってアップデートを。[挨拶]小川委員長:フェアプレーが尊重される美しいサッカーを作り上げる責任をもっていることを肝に銘じて。自身の生活をも見直しを。</p>					
所感	<p>今回も多くの学びに満ちていました。「戦術通り動けなかったら理解していないのと同じ」という言葉から、知識はあっても実行できなければダメだということを改めて思い知らされました。自分が経験できない分、様々な人のお話を伺って追体験できることも有り難いですし、そこから学んだことを実際に行動に移していかなければ何にもならないことを改めて思い知らされました。ありがとうございました。</p>					
	文責	三ツ溝 勝之		2021/8/22		